

たまにはあたらなかったのに

波照間小学校のかべにはみなさんのせんぱいが次のような詞を書いています。



下は、その一番と二番目の歌詞です。

波照間へ	お母さん	苦しいよさむいよ	一人二人と	星になる	（？）で	ガタガタふるえた	みたまたち	ほしになつた	波照間恋しいと	南十字星	「星になつたこどもたち」
波照間へ	お父さん	さびしいよ いたいよ	あそんでた	楽しくみんな	子どもたち	戦争がなければ	いふ言葉	忘れな石と	きざまれている	南風見田海岸に	作詞波照間小学校全児童

「南風見田海岸にきざまれている忘れな石という言葉」という歌詞が気になるので、西表島の南風見海岸に行ってみました。



(写真：96年野間一博氏)

南風見には「忘れな石」の碑がありました。「忘れな石 ハテルマ シキナ」と書かれています。いったい何のことでしょう。少し戦争について調べた方がよさそうです。

下の表はおよそ50年前の戦争でなくなった人の数です。

	竹富	小浜	黒島	新城	波照間	鳩間	西表
アメリカ軍のこうげき	2	1	10	0	0	2	12
(?)	7	124	19	24	477	59	75



やってみよう

なくなった人の数の多い順に下の表に書き入れてみよう。

アメリカ軍のこうげき		(?)	
1.()島	()人	1.()島	()人
2.()島	()人	2.()島	()人
3.()島	()人	3.()島	()人
4.()島	()人	4.()島	()人
5.()島	()人	5.()島	()人
6.()島	()人	6.()島	()人
7.()島	()人	7.()島	()人
合計	()人	合計	()人



考えてみよう

- 1.上の表を書いてみて気づいたことを書いて見よう。

()

波照間国民学校（当時の波照間小学校）の子どもたちも323人のうち66人がたまたまにあらずになくなっています。波照間島の人々はアメリカ軍のこうげきをうけていないのになぜ多くの人がなくなったのでしょうか。

当時の波照間島のことを知っている方にお話を聞きました。

波照間島のおばさんのお話

戦争の始まる前、波照間島の人口はおよそ1600人で食べることには不自由しないし、どろぼうもないので平和な島でした。

昭和20(1945)年のことです。1月と2月に1度ずつ空しゅうがあり、3月末ごろ波照間に住む私たちはマラリアでよく知られていた南風見へ行かなくてはならなくなりました。

南風見に行って1か月ぐらいはみんな元気でした。しかし、後からマラリア病人が出始めました。中には子ども6人を残してなくなっていったお母さんもいました。マラリアを治すくすりもなく、しだいに食べ物もなくなり始めました。死んでしまう人も多くなり、元気な人は毎日病人のかん病、すい事、そう式と大変でした。それでも私たちは波照間島にもどることはできませんでした。8月になってようやくみんなが波照間へ帰ることができました。

帰った後、どこの家でも南風見にいたころよりもマラリアがはげしくなりました。



考えてみよう

前ページ、表の中の(?)にはどんな言葉がはいるだろうか？
()

戦争当時、南風見に行った波照間島の人1275人のうちマラリアにかからなかったのはたったの16人でした。

マラリアとは、熱が上がったり下がったりをくり返す、命を落とすこともあるおそろしい病気です。

そのときのようすについて波照間島のおじさんに聞いてみました。

波照間島のおじさんのお話

昭和20(1945)年の3月末ごろのことです。「アメリカ軍が波照間に来るから一人残らずに南風見へそ開するように」と軍から命令がありました。お年よりの方々は南風見にはマラリアがあることを知っておられて反対しました。また、「西表はマラリアがあって心配だ。島にはみんなが入れるくらいの洞くつがあるから、そ開には反対だ」という人もいました。しかし、「反対するものはきり殺す」とある軍人が刀をぬいたのでそ開するしかなかったのです。

そ開先での生活はだんだんひどくなり、「このままでは全めつしてしまう、島に帰してくれ」と言ってもその軍人は聞いてくれませんでした。

そこで、7月の末ごろついにしきな校長先生が石垣にいた軍のせき任者に直そしたので、私たちは8月になってようやく波照間島にもどることができたのです。



やってみよう

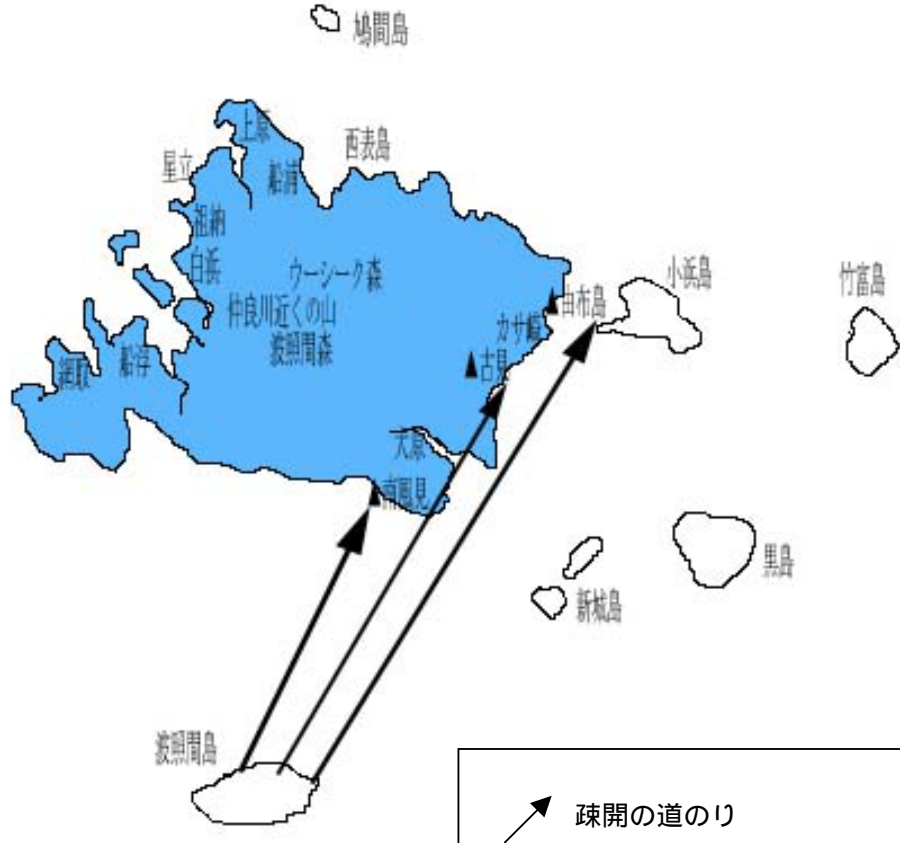
なぜ波照間の人々は波照間島にもどらなかったのでしょうか？下の「波照間島のおじさんの話」に、それがわかるところに線をひきましょう。

「忘勿石ハテルマシキナ」という文字は、このしきな校長先生が、波照間に戻るさい、南風見の石にきざんだものです。



やってみよう

実はこのようなそ開は波照間島だけで行なわれていたわけではありません。次の表はそれぞれのそ開先をあらわしています。どこからどこへそ開していったのかはやじるしを、そ開地には を例にならって地図に書き入れてみよう。



疎開の道のり
 疎開先
 マラリアがあった地域

住んでいた場所	そ開した場所
波照間島	南風見、古見、由布
竹富島	由布島
黒島	カサ崎
新城島(上地・下地)	大原
鳩間島	上原、船浦
西表島祖内	ウーシーク森
西表島星立	ウーシーク森、波照間森
西表島船浮	大原
西表島網取	ぴいさんかー
西表島白浜	仲良川近くの山



考えてみよう

どんなところにそ開場所が多いでしょうか。立体地図と見くらべながら考えてみましょう。



このようにマラリアのある所に人々をそ開させたことは波照間島だけでなく竹富町のほかの島でもありました。

みなさんのおじいさんやおばあさんのなかにもそ開させられた方がいらっしゃるかもしれません。



やってみよう

みなさんの身のまわりにそ開によるマラリアのことについて知っている人がどれくらいいるだろうか。知っている人がいたら話をきいてみよう。話をきいてわかったことをまとめてみよう。

南風見にすんでいるおじいさんの話

本当に、当時は大変でした。食べ物もなかったし、何よりマラリアにかかっているせいで、どんどん人がなくなっていった。もう、あの時生きてた人も少なくなってきているし、今の若い人たちには、当時何が起こって、なぜたくさんの方がなくなっていったのか、本当のことを知ってもらいたいですね。



考えてみよう

そ開によるマラリアのことを勉強してあなたが「わすれてはならない」と思ったことは何ですか？